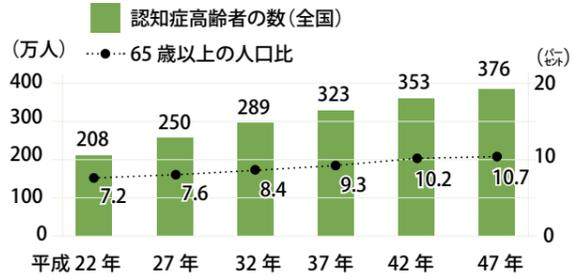


DATA 認知症高齢者の現状と推計



資料：厚生労働省老健局「高齢者介護研究会報告書『2015年の高齢者介護』(2003年6月)

(注)平成14年9月末に推計した「要介護(要支援)認定者における痴呆性高齢者」と「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」から算出したもの。この推計によれば、要介護(要支援)認定者について、何らかの介護・支援を必要とする認知症の高齢者は、平成27年におよそ250万人に。

※平成16年に「痴呆」は「認知症」に改められました。

1 認知症の現状を知る

85歳以上の4人に1人が認知症の症状があるといわれています

認知症は意外と身近に

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気です。85歳以上では4人に1人が認知症の症状があるといわれています。さらに今後20年で、その数は倍増すると予想されています。認知症は、自分や家族などに、いつ発症するか分からないもの。もし大切な人が認知症になってしまったら、私たちはどうすればよいのでしょうか。まずは、認知症について正しく理解することが大切です。



たての立野 のり子 さん

千歳いきいきサロン会長。5年前に母が認知症に

誰にも言えずひとりで抱えた母の認知症

INTERVIEW

認知症の人の介護経験者に聞きました

まさか母が認知症に

5年ほど前のことです。風呂場にあるはずの洗面器を台所で見つけました。自分で置いた記憶はなく、母に尋ねても知らないと言いました。何かおかしいと思いましたが、認知症の知識がなかった私は、まさか母がそうだとはいえません。ある日、看護師の娘が母の様子に気づき、病院での受診を勧めました。そこで、アルツハイマー

型の認知症であることが分かったのです。近所の人に、本当は固い筋を柔らかくしておいしいとおすそ分けするのを見た時は心が痛かったです。また、徘徊はかなりの頻度であり、どこを探したらいいかわからず、とても怖かったです。そんなことが続き、心配とイライラで、私の心は不安定に。母が何かして、私が怒ると「ごめんさないね。母さん死

たての立野 のり子 さん  
千歳いきいきサロン会長。5年前に母が認知症に

んだほうが良かね」と言うことがあり、本人の前では明るく振舞いました。当時は、誰にも言えない、自分で見るしかないという気持ちでした。

ひとりで悩まないで  
そんな時「認知症家族の会」を勧められました。参加すると、同じような立場の人と話をすることで、介護の悩みを共有でき気が楽になりました。ですから、認知症の人を介護する皆さんには、一人で悩まないで伝えたい。そして、少しでも認知症について理解する人が増えて、地域で支えられるようになればと考えています。そのために、私の経験が役に立てばとも思っています。

「認知症家族の会」は毎月第2土曜に開催しています。詳細は、小林市地域包括支援センターTel 25-0707



大切な人や思い出すら忘れさせてしまう脳の病気、認知症。その患者数は全国で250万人を超え、さらに増加しています。私たちが生きる小林市でも同じこと。今月号では、決して他人事ではない認知症について知り、認知症になっても穏やかに自分らしく暮らせるまちにするためにはどうすればよいか、考えていきます。

DATA

小林市の少子高齢化

小林市の平成23年の高齢人口割合は30.21%。対して年少人口割合は13.08%。平成18年からの5年間を見ても少子高齢化が進んでいることが分かります。

(注) 1. 年齢別人口の推計にあたっては、国勢調査人口をもとに、住民基本台帳による増減数を各歳別に加減して推計しているため、一部の年齢にマイナスを生じることがある。2. 人口割合については、年齢不詳を除いて算出している。

小林市の年齢別人口の推移と割合

